

流域治水協議会

9)自分事化に向けた取り組み事例紹介

9)－2 自分事化に向けた取り組み計画

・令和6年2月8日 筑後川・矢部川流域治水協議会にて自分事化に向けた取組計画を策定。

令和5年度の取り組み実績を踏まえ幹事会で検討の上策定した。

自分事化に向けた取組計画 目標の考え方

筑後川・矢部川水系流域治水協議会 目標の考え方のまとめ

流域にも視野を広げる

(自分のためにも、みんなのためにも)

流域治水の必要性の情報発信

- 流域治水取り組み・見える化
- 流域治水協議会等情報の発信・議論の場を持つ
- 流域治水の役割・効果
⇒山間部・上流から下流の取り組みと役割・効果。
- 流域治水取り組みの情報・課題共有等
⇒効果の向上

水害リスクの見える化

- 治水対策効果の見える化
- ダム、砂防等インフラの役割、効果をわかりやすく。
- 地形、自然条件、地域の水害の歴史をまとめる。

- 水害の実態を伝える
- 水害の実態
- これからの気象変動
⇒身を守る必要性を理解し治水対策の必要性を理解する人が増える。

地域共同の取り組み推進

- 地域でモデルとなる取り組みを推進。水害リスクに関する理解が深まる。
⇒流域に視野が広がり、流域治水に取り組む人材が増える。

多様な防災教育等の実行

- 治水の考えや流域治水の考えを知る。
- 過去の水害から地域の弱点を知る。
- 地域の河川、自然への理解を深める。
- 自分の住む地域への理解を深める。
⇒水害へ備えの必要性を理解した人が増える。
⇒家族で一緒に水害について考える様になる。
⇒流域治水の取り組み参加者増加と活性化。

様々な方法での防災情報の発信

- 防災情報を身近でわかりやすく
⇒身近な伝え方ができれば地域の人々の理解につながる。

町づくりからの安全な暮らしへの誘導

- 町づくりについて議論し災害に強い町づくりを進めていく。
⇒町づくりからの治水対策。効果の発揮・効果の持続

流域治水を暮らしの文化に

- 命の安全を一番に。
- 早めの避難、協力しあう避難行動をあたりまえに。
- 暮らしの基盤の回復力。
- 職場、生活の場の安全を確保。

⇒被害を受けても、しなやかに回復できる強靱な地域へ

様々な機関で連携した取り組み推進

- 流域治水に関する取り組みを企業、学術・専門機関、事業者等に推進。
⇒企業等の治水対策が進み、地域の安全度向上と地域連携地域の活性化につながる。

個人での取り組み推進

- ⇒防災知識が向上し地域の取り組みを知ること個人での取り組みも向上。

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

自分事化に向けた取組計画(目標・実行内容)令和6年2月8日策定

筑後川・矢部川水系流域治水協議会

目標 実行内容

流域にも視野を広げる

(自分のためにも、みんなのためにも)

流域治水の必要性の情報発信

流域治水取り組み・効果の見える化

- ・ホームページで取組の発信
- ・実施状況や効果情報の発信

流域治水協議会等の情報発信・議論の場を持つ

- ・流域治水協議会
- ・勉強会等の実施

治水対策効果の見える化

- ・治水効果をタイムリーに発信(出水情報)
- ・社会見学
- ・地域イベント

水害リスクの見える化

- ・浸水想定区域・土砂災害警戒区域等の見直し公表
- ・総合的なハザードマップ
- ・浸水や被災地の現地明示
- ・地域の災害史等を公開

- ・水害の実態を伝える。
- ・これからの気象変動

- ・広報誌
- ・イベントでの広報
- ・出前講座
- ・写真や記録等の展示会

地域共同の取り組み推進と人づくり

- ・地域でモデルとなる取組み等を推進
- ・水防活動の体制や拠点づくり・水防団等募集等
- ・出水時の資材の準備等
- ・田んぼダム、水路・ため池等の先行排水の推進
- ・水路・ため池等発災等維持管理の推進
- ・取り組みの議論の場をもつ

多様な防災教育等の実行

- ・小・中学生等の防災・歴史・環境教育
- ・地域での防災・歴史教育(年齢層等を意識)
- ・企業体等への防災・歴史・環境講習
- ・河川・地域協力団体で実施する勉強会
- ・自治体間で連携した勉強会
- ・インターネット配信の学習会
- ・防災ゲーム

様々な方法での防災情報の発信

- ・浸水センサーの活用・水位計・カメラの活用
- ・防災リーダーや防災士等を活用した情報発信
- ・防災情報ソールの活用普及
- ・緊急速報、アラートの活用
- ・メディアと連携した情報発信

町づくりからの安全な暮らしへの誘導

- ・町づくりの議論の場
- ・浸水情報の現地明示
- ・立地適正化計画の策定
- ・地域防災指針の策定
- ・特定都市河川浸水被害対策法の活用検討

地域での自主防災の取り組みによる人材育成

- ・住民参加防災訓練の実施
- ・マイタイムラインの作成
- ・避難所や避難ルートの事前確認
- ・地域の防災ルール(地区防災計画)の作成
- ・防災リーダーや防災士等の育成

流域治水を暮らしの文化に

- ・命の安全を一番に。早めの避難、協力しあう避難行動をあたりまえに
 - ・暮らしの基盤の回復力。職場、生活の場の安全を確保
- ⇒被害を受けても、しなやかに回復できる強靱な地域へ

様々な機関で連携した取り組み推進

流域治水に関する取り組みを企業、学術・専門機関、事業者等に推進。

- ・専門機関と協働で防災情報の活用的高度化
- ・企業等の施設保全計画、避難等基準等の整備
- ・要配慮者施設の防災・避難計画
- ・企業等での雨水対策施設の設置推進

個人での取り組み推進

- ・マイタイムラインの作成
- ・避難所や避難ルートの事前確認
- ・非常持出袋や備蓄の事前準備
- ・避難時の隣近所への声掛け

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組み主体が増える

筑後川・矢部川水系流域治水協議会

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
①知る機会を増やす	◎流域治水の必要性の情報発信 地域 個人 企業・団体	広報誌での啓発 ● 出前講座等を活用した情報発信	広報誌での啓発 ●	広報誌での啓発 ●	会議の実施 ●
	◎水害リスク等の見える化と活用 地域 個人 企業・団体	浸水想定区域、土砂災害警戒区域等の公表、洪水・土砂災害ハザードマップの更新、配布等 地域の災害歴史や 最新の災害情報を発信、公開。 広報誌、メディア活用			
	◎地域共同の取組推進 地域 個人 企業・団体	市民での土のうの事前作成 水路土砂撤去 田んぼダム・水路等事前排水・水防活動		取組手法の議論検討の場 ●	取組手法の議論検討の場 ●
②自分事と捉えることを促す	◎多様な防災教育等の実行 地域 個人 企業・団体	防災講話、研修会 ● 学校・企業・自治区にむけた 住民参加型の防災訓練 ●	家族向けイベント ● 家族向けイベント ● 住民参加型の防災訓練 ●	家族向けイベント ● 家族向けイベント ● 住民参加型の防災訓練 ●	
		危機管理型水位計・監視カメラの設置、防災情報ツール活用推進、アラート活用 避難場所や経路等に関する情報の周知、市民への情報提供、メディア連携			
	◎町づくりからの安全な暮らしへの誘導 地域 個人 企業・団体	地域への浸水等の記録の設置等 地域の理解が継続する。 町づくりの議論の場 ●	町づくりの議論の場 ●	町づくりの議論の場 ●	
③行動を誘発する	◎様々な機関での取り組み推進 地域 個人 企業・団体	要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保 タイムラインの作成・周知	防災イベントの共同開催 ●		
	◎地域での自主防災の取り組みによる人材育成 ◎個人での取り組み推進 地域 個人	ハザードマップの周知および住民の水害・土砂災害リスクに対する理解促進 自主防災計画等のルールづくりの支援、生活弱者への協力体制の構築			